

企画・準備段階における対策

- ① 利用施設と事前に調整を行い、感染対策が実施できるよう努めましょう。また、施設のガイドラインも参照しましょう。



- ② 来場者に以下を予め周知し、感染防止への協力を得ましょう。

- ① 氏名及び緊急連絡先の情報を事前に取得し、感染が疑われる人が出た場合には保健所等の公的機関に提供すること。
- ② 1週間以内に以下に該当する事項のある場合は来場しないこと。また、来場時に検温を行い、平熱を超える発熱がある場合は入場できないこと。

- A 平熱を超える発熱
- B 咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐の症状
- C 感染症陽性者との濃厚接触
- D 感染の疑いがある同居家族・知人がいる
- E 過去14日以内に、入国制限、入国後の要観察期間地域への渡航、または当該在住者との濃厚接触がある

- ③ 花束やプレゼントの持参は控える。
- ④ 会場では、人との間隔を1m離し、会話はなるべく控える。
- ⑤ 会場では、必要に応じてマスクを着用し、咳エチケットを実践する。
- ⑥ こまめに石けんでの手洗い、または、アルコール等の消毒剤で手指の消毒を行う。

- ③ ③ 日常の体調管理に努めましょう。

公演当日の対策Ⅰ

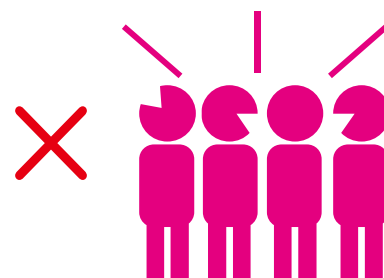
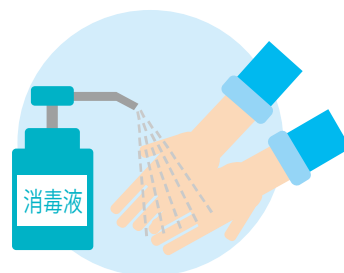
① リハーサル・舞台

- ① 「合唱練習当日の対策 ver.2」を講じましょう。
- ② 歌手から客席までの距離は2m程度を確保しましょう。
- ③ マスクを着用しない場合、団員の距離は発声する前方向に1.5m程度(最低1.2m)、左右は密が発生しない程度を確保しましょう。また、向かい合う配置は避けましょう。
- ④ 換気が十分にされているか、留意しましょう。
- ⑤ 移動時は、人と人が接触しない程度の間隔を確保し、会話は控えましょう。



② 控室・楽屋

- ① 時間帯を分けて使用するなど密集することを避けましょう。
- ② アルコール等の消毒剤を設置し、こまめに消毒を行いましょう。
- ③ 必要に応じてマスクを着用し、咳エチケットを実践しましょう。
- ④ 飲食の際は、適切な距離をとり会話は控えましょう。



公演当日の対策Ⅱ

③ 公演会場への入退場

- ① スタッフはマスクの着用を徹底しましょう。
- ② 来場者にマスクの着用を求め、不携帯者用として配布(販売)できるマスクを用意しておきましょう。
- ③ 予め時間差で入退場させるなど分散入退場に努めましょう。
- ④ 入場時は人との十分な距離をとれるよう整列させましょう。
- ⑤ 検温を行い、平熱を超える発熱がある場合は、入場を断りましょう。



- ⑥ チケット半券のもぎりは接触を避けるよう対応しましょう。

- ⑦ 手洗いや、アルコール等の消毒剤で手指消毒を行うよう周知しましょう。



- ⑧ ロビーやホワイエでは人との間隔をとり、会話はなるべく控えるよう周知しましょう。

- ⑨ 花束やプレゼントの受領は控えましょう。

- ⑩ 物品販売を行う場合は、密集を避ける他、対面販売の場合は飛沫防止具の設置を検討しましょう。また、オンライン販売やキャッシュレス決済などで現金授受を避けるよう検討しましょう。



- ⑪ 入待ち、出待ち、ロビーコールやサイン会など、密集を避けましょう。

- ⑫ 出演者と来場者の接触は極力控えましょう。

- ⑬ 退場時は、ロビーやホワイエで滞留しないよう、速やかな退館を促しましょう。

公演当日の対策Ⅲ

④ 客席

- ① 感染が発覚した場合に備え、入場者の座った席が明確になるよう席の指定が推奨されます。自由席の場合は、着席した座席の位置や番号を控えておくよう周知しましょう。
- ② 歌手から客席までの距離は最低2mを確保しましょう。
- ③ 客席での大声での歓声や声援等を伴わない場合は収容率100%以内とすることができますが、歓声や声援等を発することが想定される場合、収容率50%以内で1m程度の距離を確保できる客席の配置としましょう。
- ④ 50%を超える収容率で公演を開催する場合、ブラボー等の大声での声援を行わないよう周知しましょう。

⑤ 休憩

- ① 客席内の扉を開放するなど複数の出入り口を作り、ロビーやホワイエへの移動が密集しないようにしましょう。
- ② ロビーやホワイエでは人との間隔をとり、マスク着用の上、会話はなるべく控えるよう周知しましょう。
- ③ ロビーやホワイエでの飲食は、距離の確保など感染防止策を行ったエリア以外ではしないよう周知する。また飲食の共有、飲食中の会話を控えるよう周知しましょう。
- ④ トイレでは、人との間隔をとり整列するよう周知しましょう。

⑥ 公演終了後

関係者等による打ち上げは控えるなど、密の回避と飛沫感染や接触感染を避ける方策をとりましょう。